

<隣のヤオヤさん>

高珠瑛 ゴジュヨン

目次

1. 動機

2. インタビュー

今、ここ、やおや

そして、このヒトたち（イケイケ君の巻、社長の巻、ジュンちゃんの巻）

やがて、10年後

3. 結論

4. 終わりに

1. 動機

最初の授業で授業の内容を聞いてふと思い出した人たちがいる。魅力的というには何かを考える前、その対象が決まったわけだ。好奇心を持たせるだけでも十分魅力的だと言いつつ。

今の所に住み始めた頃からずっと気になっていた一軒のお店、それからその人たちがいる。店の名前、なんと「やおやさん」、素朴すぎる名前だ。閑静な住宅街だけあって、色んな八百屋さんがあるなか、このお店は私の気を惹き、すでに頭の中の書き物での舞台と主人公となっていた。

何で惹かれてしまったのかというと、一言で「あまりにもやおやさんっぽくない所」。この八百屋さんの人たちは社長らしき人物を含め3 - 4人の若い青年たちだ。20代前半から30代前半くらいの。見た目は渋谷のどこかでバンド活動でもやっていそうな格好で、それと関係があるかどうか分からないが、店のスピーカではいつもロックが流れている。他の店と比べると決してお客さんが多いとは言えない—あまりにも狭すぎて入りにくい—が、店の前を通るだけでも元気が伝わってくる。気のせい？

それに、その人的構成は非常に私の好きな風である。若者たちが力を合わせて何かに励んでいる姿は私の大好きである（同性同士ならなおさら）。持っているのは何もないくせに周りからは情けないと言われるかもしれないが、その人たちを見ると、私は何だかホットする。頑張れるぞという気持ちにもなれる。

大学を出てから自分でも飽きるくらいの悩んでいることは どう生きていけばいいか とのこと。別に偉そうに言わなくても、どんな仕事を選び、人とどのような関係を取り、どんな人生観を持って行くべきかのこと。同じ価値観の仲間と一日楽しく、素朴に暮らせればというのが私の夢である、共同体みたいに。でも、一方で周りの目を気にしつつ、格好いい、偉そうな仕事を持つのを夢見る自分がある。誰も認めてくれないかもしれないが、汚い仕事と言われるかもしれないが、自分が選んだ仕事を楽しみながらお互いに頼りなが

ら生活している（と見える）この青年たちを見て「本当の元気」というのを感じたり、少しは自分の夢に対して勇気をもらったような気がしたりするのだ。

それで、思い切って、自分の膨らんだ想像が正しいかとぶつけてみることにした。

2 . インタビュー内容

今、ここ、やおや

一番聞きたかったこと、この八百屋さんの正体に対する質問。

“やおやさん”の歴史は？

（社長）2年前、スーパーで仲間だった女の友達と一緒に始めた。今その子はもう一軒の店長で行っているけど。仲間って大事。若いからみんな頑張るしね。

後の話によると店の資本金は全て社長が出したそうだ。もう一軒のお店は100円ショップ。

何で八百屋さんなの？

（社長）これしかないから。やりたいことはいっぱいあるけど、結局できるのがこれしかないから。18才の時にスーパーで働いた。学校を中途半端でやめたわけ。高校1年の時、先生から“お前がいると私の評価が下がるから”と言われた。先生のために学校行っているわけでもないし。まったくサラリーマンみたいな先生だったね。そういう事があって結局辞めた。それから建築の職人を始めたけど高校を卒業する頃に父親に勧められ知り合いのスーパーで働くことになった。“どういう時代になるか分からないけど、食べ物は大丈夫だから”って。でも、そのうちだんだん色んな社会の矛盾が分かってきて、それではやっぱり自分でやるしかないかなと思って。

答えは意外と簡単に返ってくる。なるほどと思いながらも、自分のどこかに八百屋さんは若い人がすべきの仕事ではないと決め付けていたのではなかろうかと自問。社長の言う通り、「学んで、経験して、それでできることをする」だけだ。選択ってそんなに複雑なものじゃないかも。社長さんが経験した矛盾というのは、「学歴優先主義」のこと。何をしようにも自分がやることより大きい評価の基準になっていたという。

やりながら一番大変なのは？

やっぱり人を使う事。永遠のテーマ。

人を選ぶ基準って言うのは？

コミュニケーションが取れる人。話の中で気が合う人はいい人。

今の仲間たちとこれから何かを続けて行くのか。

自分は本当にそうしたいと思っているけど。それが本物の夢であったり、同じ考えの人と付き合うのが一番理想だし、一緒に呼吸していくのが。でも、やっぱりみんなそれぞれやりたいことがあるので、音楽やりたいとか、ダンスやりたいとか。なかなか難しい。

外で見るとみんなが友達感覚で仲良くやっているように見えるが、それだけじゃ駄目だという。そうだな、私が見ていたかぎりでもけっこうの人の入れ替わりがあった。いくら仲良しといってもみんなが自分と同じ思いを持っているわけではないから。ともかくとして、社長の基準を満たし、やおやさんを共に支えている二人がいる。社長が言った「気が合う人」のを見つけ方はいかにも社長らしいものだった。

働くようになったきっかけは？

(イケイケ君、29才、2002年12月から)ここの辺で住んでいて普通に買い物にきたただけだった。社長ってけっこう誰にでも話し掛けたりする方で、色々話すようになっていた。もう一軒の店を出してからは社長が一人でやっていたらしい。始めは、“誰かいい人いない？”と人探しを頼まれたが、いつしか“やって！”みたいな感じで言われて・・・。

(ジュンちゃん、24才、2003年2月から)3年前からここの辺で住んではいたけど、知り合ったのは、熱帯魚飼っていてその水槽を買って来る時にすごく重かった。で、ここを通る時に社長から声をかけられ、台車も貸してもらった。それからちょこちょこ野菜買うようになって。働きたいと言い出したのは僕の方。

書き物の始まりはこれに決まりだ。社長のキャラやらシチュエーション上、これはさわやかを越え、結構コミックなシーンになりそうだ。こうしてやおやさんに今の三人が集まるようになったということ。

何故ここで働きたいと思った？やおやさんだから、それとも社長に人間的に惹かれて？

(ジュン)両方。鍛えてほしいと思った。仕事のやり方とか、人生勉強とか。色んなことできたほうがいいかなって。

やおやさんだと飲食店とか他の店で働くのとは違うところもあると思うが、どう？

(イケイケ)10年近くいろんな仕事やって、もう働きたくないって、人に使われて働きたくないって思ったが、ここは、自分がやればその答えが返ってくるっていう感じはある。

やおやさんだけあって、客層とかも前と全然違うし。おばさんがほとんどで。やりにくかったりしない？

(イケイケ)年をとっていろんな経験してきて、適当にとは言えないが、対象は別にそんな気にすることないかな。それから、どんな仕事でもイメージっていうのがある。やっぱ

りやおやさんやっているとなんか自分もだんだんやおやさんっぽくなって。あまりそうなりたくはないけど。

(ジュン) まあ、自分のお母さんだと思えば。

ここで色んな種類の人と会っていると思うけど。面白いこととか、感じる事とか。

(ジュン) 世の中本当に色んな人がいるんだなって。それから人は見かけによらない。よく来るひととかは あ、そういう人だったんだな と分かる。この人はこういう癖があるなとか、買っていく物でも分かるし。この人野菜一杯食べているなとか。見ていると面白い。

ここは本当に生活の場だからね。気取ったりする必要のない。

(ジュン) みんなが「素」と言うか。

イケイケ君は長い間一人暮らしで、料理がうまいそうだ。お客さんから聞かれるのはだいたい答えられるとか。いくつかの野菜の調理方法も詳しく教えてくれた。まったく覚えてないが。とにかく、若いからなのか、社長の影響なのか、やってくるおじいさん、おばさんも一人暮らしの男性、外国人もみんなが友達感覚。社長の話によれば、そういう所が他の大手スーパーとの「差」であって、お客さんの立場から見ればかなりの長所である。

もし、ここを辞めることになったら仲間たちとはどうなると思う？

(ジュン) 分からない。ここに就職する可能性もあるし。でも、社長とは仕事の前に友達だから、ただの友達になると思う。ほかのバイトの仲間とは明らかに違うから。友達とまたま仕事している感じだから。

外で見えていて三人でここを一緒にやっていると思った。お金的にも。

(ジュン) でも、近い。お金を出したのは社長だけど、社長だけが一杯もらっているわけでもないし、そんな儲かってもないし。雇われているよりは一緒にやっているって感じだから。その分責任も持っているし。

社長はこの仲間とできれば、ずっとやりつづけたいと思っているらしいけど。

(ジュン) 初めには単純にバイトしたいと思っていた。でも、社長が望んでいるのはそういうのじゃない。バイトと社長じゃない、パートナじゃなきゃ。お金を誰が出したとか、そういうのは気にしないように感じさせるし。誰か仲間の人に“この店あげるから、やって”って言える人だし。社長としては今の会社とかの仕組みがいやだと思っている。学歴とかで利益が違ったり、そういうの。会社が誰の物であるというのに執着しない。一緒にやったらいっしょの利益をもらうっていうのが大前提。社長こそが自由人。そこが魅力かも。

社長って普通はどんな人？

(ジュン) 仕事に関しては厳しい面もあるけど、すごく面倒みがいい。みんなの事すごく心配しているし。

最高の仕事場じゃん。

(ジュン) だと思う。やる気があって働いている人にとっては。多分こんなに面白い店はないと思う。

仕事場は働いている人にとっては生活の場である。なのに普通、仕事場で一人ひとりの個人はいなくなる。ただ、会社の人 達 として存在する。一生懸命働いても、悔しかったり、息苦しいと感じたら、それはもはや生活の敵になるだけだ。単純に仕事場としてこのやおやさんが いいな と思っちゃったり。

(イケイケ) 実は、こうやって物並べて 置けば、ただお客さんが入ってきて、買って行く所で働きたい。人と接するのがいやじゃないけど、それだけパワーを使う。矛盾するね。お金をもらうのって大変だね。でも、とりあえずひと通りのことはやって、辞めたいと言い出した時、辞めてもらうと困るなって言われるくらいまではやって辞める。でも、それができなかった仕事がガソリンステーションだった。働いている人の種類が違って・・・みんなが車に夢中になっているから、そのために働いているから、これは違うなと思った。

やっぱ、同じ空間にでも人それぞれの望みは違うわけだ。やおやさん自体が何か欠陥があるということではなく、人によってその受け入れ方も満足感も違う。社長が話した永遠のテーマをちょっと理解できるような気がした。それに、今考えてみたらイケイケ君のこのセリフはまさに前触れだった。

そして、ここのヒトたち

イケイケ君の巻

ここで働く前はどんな仕事した？

(イケイケ) 色々飲食関係のバイトとか。僕、ダンスやっているので、モダンダンス。それで、就職とかしないで、バイトしながら・・・

素朴な質問をするつもりが、内心期待はしていたものの、予想もしなかった所で話が弾み出した。今やっていることや、人生の話まで。やおやさんで働いているヒトの話。

イケイケ君、九州出身の彼は19才の時ダンスを始めた。芝居をやっていた父親の影響で、17才の時、上京してから劇団活動を始めたが、モダンダンスに出会い、方向を変えた。

会社とかで働いたことは？

ない。会社でやりたいと思う具体的なことがあれば、また違うかもしれないけど、今のところでは。会社なんかには行かないって決めているわけでもないけど。やっぱり、「流れ」というのはあると思う。絶対にこれと決めてできる人もいるけど、自分はいつも考えているし、未だに悩んでいるし。

流れという言葉。自分も意識してないが、自分のどこかで望んでいることがある、そして、自分のすべてが向かっている所がある。それは人間ではない存在がつくってくれる運命とは違うもの。とんちんかんに選択をし、何かを決定する時、いつも自分を慰める言葉であった。自分の選択が正しいとはっきり人には説明できないが、自分を間違っているよという気にさせる。この言葉は私にとっては特別な響きのものである。

夢なんだけど、世界中を旅してみたい。ひとつの所にずっといるのが苦手で。自分の行動範囲が限られてくるというのが。人間って一生のうち行けるところとか体験できることは限られていると思うけど、出来るだけの体験はしてみたい。

もったいないよね。毎日朝起きて、同じ所に行って・・・

うん。例えば、今はどこにでも自転車で行くけど、たまに電車乗ると、すごく変な感じがする。すごく狭いスペースにそんなにたくさんの人が黙って入っているってことが普通じゃない。でも、そういうのあんまり考えたりしないのかな。みんな考えるのをやめたのになって感じ。考えてもしょうがないか。

それだ。考えてもしょうがないと知りながら、ついつい考えちゃうこと。それが問題。しかも、問題だとも知りながらまた考え込んでしまうこと。救いようがないな。

だいたいみんな学校で同じこと学んだり、同じ時代を生きていてそんなに変わらないことを見たり聞いたりしたはずなのにそういう人たちと何が違ってこうなったのかな。

自分はやっぱり父親の影響。すべての人が朝会社に行くのではないってわかっていたし、父の芝居を見に行ったりしたから、学校に行くのが当たり前とも言われなかったし。自分では月から金まで会社に行って土日は自分がやりたいことをやるっていう人の方がすごいなと思う。時間とか色々拘束されるはずなのに。

夜電車の人たちを見るとみんな本当に頑張ってるんだなとも思う。でも何かかわいそうかもって。

人生って選択肢はいろいろあると思うけど。

今は楽しい？というか、幸せ？

やりたい事以外にはやってないからそういう意味では幸せ。その分多分リスクはいろいろあると分かっているし。でもリスクがない分自分というのを殺さなきゃいけないから。

卒業して就職をして何数年を一日のように感謝しながら生きるのが私にはできなかった。そのくせにそのつまらない所から離れていると、また不安でたまらなくなる。そのリスクを受け入れる勇気がないのだ。つまらない日常もいやで、リスクも嫌がっているのだ。“怖いと思わない？”と聞いてみるつもりだったが、やめた。怖がっているとしても今自分が感じる怖さとはまた違うものだろう。

12時に買い物に来る人が多いのは初めて知った。この時間帯には年寄りの老夫婦が多い。狭い店が人で一杯になった。

社長の巻

社長はここだけ集中している？

パソコンの勉強している。プログラミングに興味があって。そういう会社でアルバイトしている。

何でパソコン？

電卓と一緒に感覚で。これからの仕事にも役に立つと思うし。頭良くないから、色んなところで救いになると思う。アイボみたいに。

店二軒持ちの社長がバイトだそう。勉強になるから。お金までもらって”なるほど。前も述べたように学歴とかで挫けた経験があったからか、かえって自分がいつも気にしているようだ。その弱点を克服するために社長はパソコンを選んだわけだ。

やっぱり行動しないと何も始まらないので、行動してみて。

駄目だったらどうすればいい？

またゼロからやり直す。ていうか、その最低限、駄目だった場合もちゃんと考えて、動くとか。やらないと行動が出ないので、行動して、あ、向いてなかったなとか。行動していかないと先には進まないの。

人生の後輩に一言をお願いしたら、出た言葉。誰でも言える極普通の言葉である。が、実際に頭の中でだけすべてが起こり、終わるのだ。そんなのどうしようもないことだとよくわかっていながらも。そんなくせに普通とか言うんじゃないか！

年とは関係あるかな。

あるね。年とるとやっぱり身守りになっちゃうから。若い内は自分さえ頑張れば何でもできるから、そのうち色々やってみないと。それから、数学、算盤ね、それと団体スポーツを小さい内からやってれば、大丈夫、学校は関係ない！

社長って明快な人なんだな。単純と感ずても別に非を打つ所もないし。格好を付けない素直って感じがするひとだ。仲間を大切にするのも人を理解しようとするのも、やろうとしたことに取り組むのも、理屈で説明できるものではない。どうすればこういう純粋性を保てるのだろう。やっぱ、スポーツか。やっとなければよかつたな。そして、算盤は人に対してではなく、物売るときだけ使えばいいのだ。

ジュンちゃんの巻

ジュンちゃんは最も気になっていた、店の音楽を勝手に担当している。高校の時から音楽を始め、今もバンドを組み、練習を続けている。バンド名はまだ決めてないそうでベース奏者。

音楽はCDを持ってきたり、ラジオだったり。確かにやおやさんとしては珍しいかも。社長がああいう人だから。好かれるようにやらせる。

鍛えてほしいとおやさんの一人になった彼は、“今、かなり鍛えられている”と言った。午後の時間はほとんど一人任せられて、いい加減な仕事はできなく、責任も感じたり、人との接し方とかも。

就職とかはやらないって決めたわけ？

25才までは。これだということができなければ就職する。つまり、音楽でご飯食べれるようになってなければ。就職しても音楽はやり続けると思うけど。だから、今ちょっと焦っている。あと1年。その1年をどれだけ充実させるかのこと。

でもいつも思うけど、本当にやりたいことって何なんだろう。どのくらい沸いてきたら、本当なんだろう？

あ・・・楽しければ。ちょっとでも面倒くさかつたりと思うようになったらもう。

でも、いくら好きな事だつて実際仕事になったら、また別になつたりしないかな。

それはあると思う。現実。でも、やってみないと分からないから。アントニオ猪木の“やれば分かる”って。バカみたいと思うけど、間違えてもいないな。

そういう単純な考え方がいいかも。

うん、逆にあまり深く考えすぎると。単純にやりたければやつて。

自分もやってみてからこう思つたくせに、バカな質問をしたもんだ。とにかく、いまは一緒の立場だけど、彼はイケイケ君とはまたちょっと違う。モラトリアムというか、慎重な選択のため時間を稼いでいるというか。かといつて、やおやさんが彼に別に意味のない所ではない。1年後の就職候補でもあり、一生の仲間との出会い場であり、何より何もかも

を学ぶ所である。

周りでみて格好いい仕事をしたって思ったことない？いわゆる、力仕事じゃない仕事。もともとはそういう教育受けてきた。5才から塾通わせたり、進学高校はいらせたり、でもそれが逆に嫌気がさして、音楽を始めた。反抗心から始まったかも。親からあなたには力仕事が無理とか言われたので。

今は？親の方は？

諦めた。親ももうわかったみたいで。

時々、幸せは何だろうと思う。周りから就職しろと言われて就職して給料一杯もらって、お金に不自由ことなきや幸せなのかな。そういう人もいるだろうけど、今音楽やめたら、給料一杯もらっても一生後悔すると思う。音楽やっでご飯食べれるようになったら、後は別に。

そんなお金がほしいわけでもないしね。

そう。好きな事やっでご飯まで食べれるんだったら。

今はどう？

幸せな方だと。人生の波の中で多分幸せな方だと思う。

いつも思うことだけど、夢を追う人って、みんな本当に 素朴 そのものだ。

好きなバンドを聞いたら レッドホットチリペパース だそう。年取ってすごく頑張ってる感じだと言ったら、“ああいうおじさんになりたい。年取ってもバカやってる感じの、みんなと同じ方に行きたくない”とキッパリ。

すごく嫌な言い方だが、私もそうだった。キッパリ言えた。今も基本は変わってないと思う。でも、いつまでこう居続けるのかももうすでに迷っている。だからこそ、こう話し合える仲間がありがたいのだ。私は人生の波でいまはどのくらい来ているのだろう。

やがて、10年後

イケイケ君の夢は世界旅だそう。 “宝くじでも当たれば” という前提だが。

どこが行きたい？

(イケイケ) 南米かな。日本と正反対、地球の向こう側みたいな感じで。チリの下までとか。

10年後チリを縦断している日本人父子を見かけたら、この人。声でもかけてやるべし。

(ジュン) 音楽でご飯食べて、結婚して、普通に家庭持って、友達と楽しく遊んで、それが多分今自分が考えられる一番の幸せ。そうなると信じたい。

普通だから一番難しいかも。でも、信じれば、もう遠くないんじゃない？

そして、社長。何故か言ってくれない。一体どんなあり得ないことを夢見ているのか。ただ、“別の夢はあるが、ここのやおやさんがそのベースになってくれると思う”と。でも、社長が寂しく一人でここを守ることはないといいな。みんながやってきては離れていく所にだけはならないといいな。

3 . 結 論

1ヶ月も経たないうちにやおやさんには色々変化が起こった。イケイケ君はやおやさんを離れ、ジュンちゃんはずいぶん24歳になり、社長は髪の毛を金色に染めた。なのに、ここから10年後なんて想像もできない、したって意味がない。もし社長の希望通り、やおやさんがずっとそこにいるとしても、そのころは向かいのお店のようにおじいさんが大声を立てるやおやとまったく同じくなっているはずだ。その音楽はどうなるかな。ただ、世の中がどう変わっても、この人たちは変わらないままいられますように！

話を元に戻して、今になってやっと何でそんなにこのやおやさんの話が聞きたかったのかわかるような気がする。みんな決まっている道を迷いもなくまっしぐらに進んでいるように見える。でも、どこかで、息を整えたり、ゆっくり歩いて、周りも眺めながら、穏やかに進んでいる人たちに会ってあれこれ話してみたいという気持ちだったと思う。それに、誰も知らないやおやという変(?)な身なりをしている人たちがたまたま目の前でいたという。

私の大学での専攻はマスメディアだった。ほとんどが記憶に残ってないが、たまに思い出す唯一の理論がある。簡単に言うと人は自分が欲しいことだけを見て満足する。つまり、テレビやら何やら、結局は自分の考えを強める方向を選択し、解釈するわけだ。そういう意味ではこのインタビューの結論はもう初めから決まっていたその中身はそれの確認に過ぎなかったかもしれない。

結局、正確に共同体を組んでいるとは言えないが、やおやさんの人たちは自分が思っていた姿とあまり離れていなかった。自分も現実も、不安までもできる限りそのまま受け入れ、素直に取り組むだけ。あまりにも簡単な理屈である。いつも逃げ出したい、何かに縋りたいと思っているような自分にとってはうらやましいと思うくらいみんな強い人だった。その強さが知らないうちに伝わってきたのだろう。何かすごく元気だなと感じたのは。やおやさんの周りで漂っているオーラみたいなもんだったのだろう。何か大変なことをやりたり、大した人物になったり、そういうこと、別にどうでもいいのだ。自分のいる所で一日いちにち、うそつかないで、充実すれば。夢ってどんな仕事をするかに限る問題じゃない

し、今の時間は後で何かを残すために存在するものではない。

ただただ、変わらずに、自分が正しいと思ったら、信じて、焦らずに、真っ直ぐに行けばいいのだ。無理してスピードを上げる必要もないし、みんなどこまで行っているかキョロキョロする必要もない。できるかぎり、自分を信じていれば。たまに、腹が合う奴らと遊びもしながらお喋りでもしながら、一緒に歩いてみたり。永遠に共に歩くことなんかできないかもしれないが、分かち合える仲間が遠くない所で歩いていることだけでも十分心強い。またどこかで会ったら、“すごく大変だった”と文句を言える誰かがどこかにいると信じるだけでちょっとだけは足元が軽くなる気がする。

飲む度々私の夢の民宿に駆けつけてくれると言っていたヤツら、みんな今何しているのかな。おい、みんな元気でやっているかい。まだ間に合うぞ、信じていればきっと。変わらないままいて。もう耐えられないと思ったらここにおいで一休みしな。いつでも“お帰り”だよ。そのためにでも幻の民宿で終わらせないから。たくましく、生きていて。何だかうまく行けそうな気がしてきた、早くも。

4 . 終わりに

日本社会に暮らす人とは？

質問の意味がよく分かりませんが、日本社会に暮らしている人とアメリカ社会に暮らしている人がそんなに違うとは思えない。もちろん、自然的環境や物理的環境は違うし、言葉が違うから物事の表現のしかたは違うだろうし、やりたいことを法律に触れずにどのくらいできるかは違うだろうが、どこで暮らしているによらず、もともと一人一人が違うのでは、と思うので、日本社会に暮らす人はこれだとは言えない。たまたま日本で暮らしているだけのことだと思うが。

それに、今度のインタビューでもっと、こういうことを確かめられたと思う。国籍や年齢に関係なく、みんなが魅力的だと思った対象たちから何かの共通点が感じられる。自分らしさを失わない人、素直な人、夢のある人。途中からみんなのレポートに少しずつ共通の語彙が使われたり、テーマが似てきたり。みんなが望んでいるのがそんなに離れてないなと思った。違う一人一人の中でこのクラスにはそういう人たちだけが残ったみたい。結局、肝心なのは国籍、年齢、性別、そんなつまらないことではないのだと。

どうしてこのクラスが言語授業なのか？

何より、インタビューでは生きている言葉、そして自分の言葉を使うしかないから。これだけ日本語で苦労しながら書いた文章はない。本当に自分のものが書きたいと思ったこともないし。レポートのためだけにしたくはないとも思ったし。その割には一所懸命考えてやったとはとても言えないが。

それから、言葉はコミュニケーションを通じてから成り立つものだから。インタビューはコ

コミュニケーションを深くするいい方法だと思う。見かけや国籍、年齢などから来る先入見ではなく本当の人を読む方法。全部がそういうわけではないが。

インタビューだけではなく授業中にお互いに話し合ったり指摘しあったりするのでも大事なコミュニケーションであっただろう。授業サボったり、そういうのすごく苦手だと思う自分にとってはついていけない部分でもあったが。

とにかく、日本に来てからこれだけ興味津々なことはあまりなかったような気がする。みんなの頑張りぶりにビビりもしたが。ここで得た大事なことを忘れないように、そんなに早くは。